

## 幻想的に棚田を照らす 2000 の光 —土谷棚田の火祭り—

福島町土谷地区で「第5回土谷棚田の火祭り」(同実行委員会、末吉政和会長)が、9月23日に開催されました。

土谷棚田は「日本の棚田百選」にも選ばれており、棚田をまちおこしに生かそうと、地元住民などが4年前から開催しています。

午後6時半、大小の約200枚の棚田に設置された約2,000本のたいまつに、地元住民が次々に点火。棚田の曲線に沿ってオレンジ色の炎が輝き出すと、市内外から訪れた約2,500人の観客は、歓声を上げながら、幻想的な光景に見入っていました。

またこの日は、太鼓演奏や俵投げ競争などのイベントも開催されました。



## まちの話題



### 夏休みに取り組んだ力作を展示 —松浦市子ども作品展—

第2回松浦市子ども作品展が9月22日から24日まで、文化会館で開催されました。

作品展は、市内小・中学校の児童・生徒に募った、夏休みの研究や課題などの作品を発表するものです。

作品展には、日本地図の上に各県の特産品などをかたどったものを乗せた作品や、手話の指の形を粘土で作った作品などのほか、絵画、書、手芸など611点の力作が展示され、訪れた人は熱心に見入っていました。



### 楽しく交通安全を学ぶ

高齢運転者体験型講習会が9月24日、ヒューマンスクール松浦で開催されました。

高齢者の交通事故が年々増加しているため、実践的な体験を通して運転講習を行い、交通事故防止を図ることを目的に、県と市、交通安全母の会連合会の主催で、毎年開催されています。

この日は、60歳以上の普通免許取得者24人が参加。機械を使って反応速度や動体視力の検査を受けたり、教習コースを利用して運転の実習をしたりしました。

また、市交通安全母の会連合会会員親子など約30人も参加し、交通安全に関するビデオ上映や高齢者と一緒に交通安全に関する〇×クイズなどを行い、楽しみながら交通安全について学びました。



## 市代表牛を選考

第3回県北地域和牛共進会の代表牛選考会が10月5日、ながさき西海農協松浦宮農経済センターで開催されました。

和牛改良の成果を確認し、県産「ながさき和牛」の推進を図ることを目的に開かれたものです。

この日は、市内6地区から選ばれた30頭が、5部門に出場。農協職員や県の畜産担当者が発育状態や脂質、肉の付き具合などを審査しました。

各部門上位3頭(計15頭)は市代表牛として、11月2日に平戸口中央家畜市場で行われる第3回県北地域和牛共進会に出場します。



## 参加店舗に認定書授与 — 旬さば・松浦とらふぐまつり —

まつら海鮮街道第3回「旬さば・松浦とらふぐまつり」参加店舗認定書授与式が9月26日、商工会議所で行われました。

まつりは、旬さば・とらふぐやその料理を、市内の宿泊・飲食店・鮮魚即売店を通して市内外に向けてPRし、地産地消の推進と交流人口の増加を図ることを目的として、まつら海鮮街道実行委員会(小松英史会長)の主催で行っています。

この日は、まつりに参加する市内の宿泊・飲食施設、鮮魚販売19店舗の代表者などが出席。小松会長から認定書を受け取りました。

まつり開催は、旬さばまつりは10月1日から2月29日まで、松浦とらふぐまつりは10月1日から3月31日までです。



## 日ごろの成果を披露

第2回松浦市老人クラブ大会が10月8日、きらきら21で開催されました。

松浦市老人クラブ連合会(森亮会長)が、各クラブ活動の成果を出し合い、活動の活性化と高齢者福祉の充実向上を図るために開催したものです。

この日は、「こうれいしゃ貢齡者は、こうれいしゃ幸齡者」と題した長崎県立大学の浦川諭非常勤講師の講演や、演芸プログラムが行われました。演芸プログラムでは、26組が舞踊や民謡、カラオケなど日ごろの成果を披露し、集まった約180人の会員たちは楽しいひとときを過ごしました。

## 調川防犯ボランティアセンターが開所

調川地区の防犯活動に利用する「調川防犯ボランティアセンター」の開所式が10月1日、同所で行われました。

今年4月に廃止になった調川駐在所を市が譲り受けたもので、松浦地区連合防犯協会調川支部(澤邊武彦支部長)の活動拠点として、同センターの利用が決まったものです。敷地面積約280平方メートル、建物面積約86平方メートル。

式には、関係者約30人が出席。澤邊支部長は「同センターを活用し、住民で連携を深めながら安全安心なまちづくりに努力していきます」とあいさつしました。その後、友広市長と澤邊支部長が看板を設置し、開所を祝いました。

